

シロリムス(ラパマイシン)溶出性ステント

シロリムス(ラパマイシン)

イースター島で最初に発見された天然の抗菌物質

強い免疫抑制作用を有する

G1 後期のチェックポイントの前で作用し、細胞障害または細胞死を引き起こすことなく SMC の増殖を妨げる

薬物溶出パターン

90 日にて 100% 薬剤溶出

留置時注意点

ステント長の選択：病変をフルカバーする

- ・ 適応病変であるか
- ・ **Geographic Miss** の回避
 - 病変のフルカバー
 - 適切なサイズ選択
 - ステント外へ損傷を残さない
 - **No Gap**
 - 十分なステント拡張
- ・ 適切な抗血小板療法を行う

ステント辺縁部の再狭窄(SIRIUS)

proximal margin : 2.1%

instent : 3.1%

distal margin : 1.5%

糖尿病患者での問題点

臨床上の事象

【TLR(血行再建率)、TVR、院外死亡、心筋梗塞、院内 MACE(主要心血管イベント)】

コントロール群との比較

急性期の安全性は同等

慢性期の有効性は改善している

stent thrombosis(%) : 0.4-1.5%(e-Cypher、Rotterdam、Milan など)

抗血小板療法

チクロピジンの合併症

肝機能障害：2ヶ月以内に **89.2%**

顆粒球減少：2ヶ月以内に **87%**

血栓性血小板減少性紫斑病：2ヶ月以内に **100%**